

和光市総合振興計画審議会第3回会議 会議要旨

開催日：平成24年1月23日（月） 午後2時～4時30分

開催場所：和光市役所602会議室（市役所6階）

出席者：石川久会長（4号委員）

2号委員（和光市農業委員会の委員）加藤親次郎

3号委員（市内公共的団体等の役員）荒木保敏

4号委員（知識経験を有する者）中村耕三

5号委員（公募による市民）関口泰典

（欠席3名）

次第：1 議題

(1) 和光市総合振興計画進行管理における外部評価のあり方について

(2) 答申の構成について

2 その他

(1) 次回会議等について

開会

1 議題

(1) 和光市総合振興計画進行管理における外部評価のあり方について

ア 事務局説明

資料1について、「審議項目」及び「素案」の欄には、第1回会議に諮問事項の素案として示した内容を記載している。次に、「審議会委員意見（個人）」の欄には、各委員の意見を提出していただいたシートから転記したものを記載している。最後に、「審議会意見のまとめ、（答申骨子）【例】」の欄には、事前に提出された意見をもとに例として挙げたものであり、本日の会議で協議しまとめていただきたい。

議論の方法は、審議項目ごとに各委員から事前に提出していただいた意見を含めたご意見について説明していただき、その後意見交換を行い、最終的に審議会の意見をまとめる。審議会の意見としては、素案に対してどのようにしたらいいかという視点でまとめる。この内容が答申の内容のベースになる。また、審議していく項目の順番は、審議項目3「評価の対象」については、審議項目5「評価の方法」及び審議項目6「全体の流れ」と深く関連があるので、これら3つについてはまとめて審議していただきたい。

また、最後に模擬実験の評価方法などに対するご意見について、その他の意見として、資料2を参考にしながら、まとめていただきたい。

イ 審議項目1「外部評価の基本的な方向性」

加藤委員

私は総合振興計画に関係するのは初めてでして、1次、2次、3次の計画と同様に進めていただければと思います。

石川会長

山田委員は欠席ですが、「素案通りに実行していただければよいと思います。」とのご

意見です。

荒木委員

基本的には素案のとおりでよいです。それに加えて、まずはより多くの市民の方が参加できるようになればいいと思います。また、事業仕分けとは違いますが、評価コストを抑える仕組みづくりと、一番の目的であります評価の精度向上につながる仕組みづくりが必要だと思います。

石川会長

小倉委員は欠席ですが、「外部評価の方向性として掲げられている『市民参加を基本としたPDCAサイクルの確立』」についての意見です。第三次総合振興計画審議会の答申をうけ、外部評価機関として、すでに施策推進会議が設置された経緯がある（H18年から22年まで2期4年間）。この目的は市民の視点からの評価を導入することで、総合振興計画の基本計画や施策を推進し和光市行政改革のためのマネジメントシステムを効率よく運営することを目指したもので現在に至っている。同じ内容を方向性に掲げることは、行政からの説明責任の不足により不信感を与える。」とのご意見です。

中村委員

素案のとおりでよいと考えています。計画の推進に外部評価がどのように関わるのかというところを意見として書かせていただきました。ここにいる他の委員を含め、評価という機会に外部がどう関わるのかというところを相談させてほしい、外部評価を行うことでどのように総合振興計画を推進していくのかというところの言葉、具体的なイメージがまだ足りないと思います。この部分を意見として提出させていただきました。

関口委員

外部評価の基本的な方向性については妥当という考えを持っています。第四次和光市総合振興計画において市民が市政の主役であり、主体と掲げられておりますので、「市民」という観点から意見が広がって、外部評価を推進できればと思います。

石川会長

小倉委員の「同じ内容を方向性に掲げる」という意見について、どういう経過や趣旨が分かります方はいらっしゃいますか。ご本人がいらっしゃらないと分かりませんが、推測すると、施策推進会議を審議会でやろうという関係を懸念されているのかもしれませんが。

外部評価で何が変わるか、何を変えていくのかという意見がありましたが、どうでしょうか。

中村委員

素案を変えるというのではなく、あくまで考え方の話になります。市民が外部として関わるということは、サービスを受ける者として市民が、総合振興計画に対してニーズなどを積極的に発言する場だと思います。そこで出てきた意見と実際に市が進めている方法を比較し、良いものとなるよう議論することが「推進」につながると思います。素案にあるアクションの中身を議論を通じて、もっと具体的に噛み砕いて、外部としての市民が行政にどう発言するのか、単なる要望ではなく自らも動くつもりで、お互いに意見を交換した結果が推進なのだと思います。

石川会長

発言する場であり、ニーズを伝える場であり、そういった機会や場を作ることで推進

になっていくのではないかということは賛成です。次回会議で文章としてまとめたもの
を決めていきたいと思います。今日の会議では、追加、削除及び修正に関わるものを意
見交換したいと思います。

中村委員

資料1に記載の案1及び案2は加えたらよいと思います。

荒木委員

施策推進会議については案のような位置付けがなかったのではないかと思います。ま
た、一部の方にしか知られていなかったということがあるかと思しますので、今後はよ
り多くの市民の方に参加してもらえらることと、それを知ってもらうということが必要だ
と感じます。

(結論)

石川会長

素案の方向でまとめ、資料1に記載の案1及び案2と、「市民が多く参加・関与するこ
と」や「市民への説明をしっかりとすること」といった内容を追加することにします。具
体的な案文をまとめるのは、次回会議までに行います。

ウ 審議項目2「外部評価の目的」

加藤委員

会議に参加するまで総合振興計画を知りませんでしたので、情報を市民に発信し、よ
り多くの方に知ってもらうということが大切だと思います。

石川会長

山田委員は「素案通りでよいと思います。」とのご意見です。

荒木委員

外部評価の位置づけ及び目的は適切だと考えます。行政評価の精度の向上が重要で
すので、市の内部評価の客観性、妥当性、信頼性の向上につなげていくようにしてほしい
と思います。この点については、内部評価を基に外部評価がありますので、市の職員
の方にも十分に熟知していただきたいです。また、市の内部評価と市民評価の乖離を明確
にして、総合振興計画の事業の改革、改善につなげていっていただければいいと思
います。

中村委員

素案3点目「施策・事業に関する市民等との情報共有を促進すること」には、審議項
目1で意見がありました「広く市民に知ってもらうということ」を表現の修正などで含
むことができますので、素案の3点で基本的によいと思います。また、1点目「内部評
価の客観性及び妥当性を検証すること」と2点目「総合振興計画の効率的かつ効果的な
進行管理に関する助言を行うこと」には、検証や助言する立ち位置として「サービス
を受ける市民の立場」を明確にして、文言を追加するといよいと思います。

関口委員

総合振興計画の策定においては、かなりの多くの方が尽力されたことと思います。こ
の総合振興計画を私は否定したくはありません。ですから、総合振興計画をベースに市
民が主役となって行政とともにまちづくりをしていくということが基本の考え方です。
それに加えて、市民とともにまちづくりをするために、行政の透明性やきめ細やかな双

方の情報共有のシステムを確立して、よりよいフレンドシップを築ければいいと思います。

中村委員

追加事項ですが、素案の目的の(1)及び(2)においてサービスを受ける市民が内部評価に対してこうしたらいいというアイデアを出すということと、(3)において外部評価の審議経過やアイデアを広く分かち合う、また周知していくということが含まれるように、言葉を補ってしてほしいと思います。

(結論)

石川会長

基本的には素案3点のとおりとし、素案の目的の(1)及び(2)については検証や助言の立ち位置を明確化した表現にし、(3)についてはきめ細やかな情報共有の中身を加えることにします。

エ 審議項目4「評価組織」

石川会長

山田委員は「素案通りでよいと思います。」とのご意見です。

荒木委員

素案のとおりでよいと思います。策定委員会でも4部会開いておりますので、同じく4部会設置するのがよいという考えです。他の自治体の例を見ると委員に市議会議員が参加されている例もありますが、議会の決算委員会がありますので、参加の必要はないと思います。

加藤委員

公募の方法は分かりませんが、公募委員については意見が偏らないように、バランスの良い方法で選んでほしいです。なお、人数は素案の程度でよいと思います。

関口委員

基本的には素案のとおりでよいと思いますが、公募市民については評価する内容に興味のある方になってもらいたいというのが希望です。前回会議で模擬実験を行って、施策や事業について関心度に差があると感じました。外部評価でも関心のある方、意見を言いたいという方がいると思います。ですから、公募による市民の方を数多く取り入れていただければと思います。

石川会長

小倉委員は「例示された組織体制は一般的ではあるが、評価が市民のためのものであるためには、福祉、まちづくり、子育て、環境、文化など各分野のNPOや市民団体による評価を導入する(一部でもよい)ことを提案する(岩手県を参考に)。また、他市事例の委員会をヒアリングするチャンスを設けていただけると、なおよい。」とのご意見です。

NPOや市民団体から委員として参加することになれば、先ほど関口委員のお話にありました、より関心のある方の参加することにもなるかと思いますが、何かご意見ありますでしょうか。

中村委員

より多くの市民の方に参加していただくというのは、多くの方に座席に着いていただ

くということよりも、より多くの声を反映するということが大切だと思います。そういった場合、例えば、外部評価のテーマについて事前に関係団体へのヒアリングやアンケートを実施するなど現状を把握して議論していくという方法や、必要であれば審議会の会議に関係団体の方にゲストスピーカーとして出席いただき、施策を取り巻く環境や現状をお話いただくという方法もあると思います。

石川会長

発言したいNPOや市民団体というのは、もちろん関心が高く、自分自身の考えがあります。一方で、その方が評価に参加されると、ある程度客観的な評価とならないこともあります。ですから、中村委員が言うように関係団体等にヒアリングを実施し、審議会の部会でそれを受け止めて評価していくというのは一つの方法だと思われます。

中村委員

委員20名前後となりますと、この審議会よりも公募市民の方の割合も増えるかと思います。個人的には、市の外部から外部評価の経験のあるということで選出された委員よりも、外部評価のことはあまり分からなくても市の現状などを知っている委員の方が地域の実情を汲んだ発言が出ていいと考えています。

荒木委員

事業仕分けを以前に実施した際は、基本的には市の外部の方が、市の現状等を知らない状況で、資料やヒアリングなどをもとに評価された部分があります。中村委員のおっしゃるとおり、そのテーマごとに関係団体の方に来ていただいて、説明していただくより高い評価につながると思います。

石川会長

広く募集し、自ら応募するという方法ではなく、ランダムサンプリング（機械的に抽出して依頼をし、応じてくださる方が参加するという方法）という新しい方法があり、そういった方式をとることもできます。どういう方法をとるかによって、だいぶ変わってくると思います。

関口委員

どこでも市長室では500名の方、文化公社のサンアゼリアのアンケートについては2000名の方にそのような方法を実施していたかと思います。様々な意見が出ていい方式だと思います。ただ先ほど、より多くの公募市民の方が参加されるとよいと発言いたしましたが、一方で、様々な方が参加することを踏まえると、議論を円滑に進める方法を考えるのも必要だと思います。

荒木委員

素案の委員の構成について、20名の内訳はどういうものでしょうか。

事務局

①市教育委員会の委員1名、②市農業委員会の委員1名、③市内公共的団体等の役員8名、④知識経験を有する者（学識）5名、⑤公募による市民が5名で、計20名です。しかし、これは予算の関係で審議会報酬を想定するための内訳でして、この審議の内容によっては流動的になります。例えば、部会の分け方にもよりますし、そのテーマに応じた委員の選出を行うことになります。

石川会長

部会で十分な議論をすることを考えると、部会の数やテーマを検討し、どういう構成

になるのかと考えていくこととなります。市民の数が席につくには限りがありますが、どれだけ市民の声を反映させられるかを考える必要があります。

中村委員

委員の人数は20名前後でいいと思います。以前、100人委員会というものに参加したことがあります。こういう大人数の場合、最低でも7部会ほど設置され、スケジュールも審議も大変手間がかかるものでした。こういうケースでは、知識経験を有する方と公募市民のバランスが重要だと思います。

(結論)

石川会長

概ね20名前後の委員で、部会が十分に論議できる構成とします。また、場合によっては、ゲストスピーカーを呼んで様々な話を聞かせていただいて、より多くの方の声を受け止めていくという方式をとりたいと思います。

オ 審議項目3「評価対象」

加藤委員

65施策全部評価するのは、時間もかかり大変です。ぜひ審議したいというものを事務局で提案するなどして、ある程度対象を絞った形がよいと思います。

石川会長

山田委員は「ある程度の施策数に選択した方がよいのではないか。」とのご意見です。

荒木委員

評価レベルは施策でよいと思います。また、初年度はすべての施策を評価しますが、65施策全部評価するのは大変ですので、次年度からは未達成の施策に絞って評価するのがよいと考えます。

石川会長

小倉委員は「評価対象は、①重点施策を選定して行う。②2年（委員の任期内）で全施策を行う。評価レベルは施策レベルでよい。」とのご意見です。

関口委員

評価対象は、全施策及び全事務事業を希望としてはやりたいという考えです。もちろんコスト及び時間という面から難しいことは分かっています。しかし、すべての事業に税金がかかっているのですから、総合振興計画に「みんなでつくる」と表現がありますとおり、ともにまちづくりをする市民にも理解してもらうために、希望として全部とさせていただきます。

中村委員

評価対象は絞るという考えです。ただし、全65施策をまず対象の候補として、重点プランや進捗といった点に基づいて対象を選ぶという考えです。対面的に議論するには評価対象数は限られてしまいますが、和光市では既に実施していると思いますが全事務事業の評価結果を公表し、市民が評価結果を見ることのできる環境を整えることはよいだと思います。例えば、外部評価の対象とした3、4施策について、関係する事務事業も合わせて評価ということもできますが、残った事務事業については、内部評価結果を公表するということがよいと思います。内部評価結果を公表して、市民からの反応はどうでしょうか。

石川会長

内部評価結果を公表し、市民意見などを募集しているのでしょうか。また、どれぐらいの意見がでているのでしょうか。

事務局

行政評価結果は公表していますが、市民に意見を募集するという制度としてはありません。また、今まで公表した内部評価結果に対して、一般の市民からの電話等による問合せを受けたことはほぼありません。

石川会長

ある東京の自治体で、40事業を対象に事業仕分けによる外部評価を行い、その結果について、意見募集を行ったところ、意見は3件であったという例があります。数字的には関心が高いとは言えないのだと思います。

中村委員

関口委員に確認したいのですが、事務事業の評価をどう外部評価で行うのかアイデアを伺えればと思います。一方で施策のレベルを評価した場合でも、やはり事務事業の評価に及ぶということもありますので、施策の方から評価して事務事業の一部に触れるということもあると思います。

関口委員

和光市の中では行政提案、市民提案という協働で進める仕組みがあります。また、総合振興計画にも協働という言葉があります。しかし、前回会議で説明がありましたが、模擬実験で使用したような評価表以上の資料は作ることはできないとなると、市民はこの評価表だけで読み込めるのかどうかと感じます。例えば、情報のある一定のデータベース化をして、市民が分かりやすい見せ方をして、情報を共有して見ていけたらと思います。

中村委員

部会が4部会ありますので、1部会で5施策以上評価するとすれば、1年で20施策を見ることができ、それに関する事業を見ていけるので、3箇年でおおよそ65施策とそれに関する事業を見ていけることになると考えられます。このように、個人的には複数年で全部を評価するのがいいと思っています。

関口委員

もし、情報公開で資料が足りなければ、別の切り口から見ることが出来ます。前回の会議で事業等が進んでいる途中段階で、随時公表し透明性を図ることを望むと発言しましたが、それは難しいとのことでした。このシートができた段階で、情報は生きていますし、仕事は進んでいきますので、その見える化ができればいいと思います。しかし、市民の関心がなければやってもしょうがないのかと感ずるところもあります。そういうことを考えると、そもそも計画は進んでいかないのではないかと感ずります。

石川会長

出た意見が少ないからといって必ず関心が低いとは簡単に言えないと思います。

また、施策レベルで評価するというのが現実的で、主流だと思います。すべての事務事業は物理的に無理です。ある自治体の例を挙げますと、全事務事業から義務的の事業と経常的の事業を除いた190事業を3年で評価しましたが、会議は終日行って年間10回から11回でした。何をどうやって選ぶかという議論をし、絞るとということが現実的だ

と思います。「こういう理由で今回は評価しない。」、「緊急性があるから今回評価する。」といった絞込みがいいのだと思います。

中村委員

和光市と同じくらいの規模の自治体の10年程前の事務事業評価の話ですが、350事業の評価を2つ程の冊子にし、議員の各委員会で配付、説明し、議会でもこれに対する質問がいくつか出たという例があります。市民の代表である議員の方に情報提供するという方法もあり、和光市に行政評価結果を公表する手段を今回提案してもよいと思います。

関口委員

前回会議の模擬実験質問事項として会議にかかる費用についてお伺いしましたが、その趣旨は1回会議をするのにいくらかかるかということを確認していただきたいというところでした。というのは、全部の施策及び事務事業の評価をするとどれだけ経費がかかるかということになり、やはり優先順位等で選ばなければならないという中で、なるべく経費をかけずにどう情報を集約していくかということが本意でした。

事務局

評価の対象についてですが、時間の問題もありますが、時期や反映するタイミングの問題もあります。やはり、評価結果をなるべく早く反映するということが必要かと思えます。この後の議論に関わりますが、全体のサイクルにおいて行政経営方針（7月頃に決定）に外部評価結果が反映されないと、次年度への反映は難しくなります。全体の流れの中で、評価対象について審議していただきたいと思えます。

石川会長

もし、全部を評価すると決定しても、それを1年間でやるかどうかというのは別問題になります。いつの時点の何を評価するのかというのを想定しないと、具体的なやり方が難しいかと思えます。

関口委員

行政改革の方にも関わってしまして、サイクルの中に押し込んでいくのは、難しいというのは分かっています。理想としては全て評価したいですが、現実的には、時間的な点やコストの点等から難しいです。ですから、絞っていくという方向になると思えます。

中村委員

行政改革では、この総合振興計画の進行管理と別のテーマで議論されれば、なるべく広く議論できるので、そこは工夫の余地があると思えます。

荒木委員

会議予定回数は8回となっていますし、重要な点は次年度に反映するというのを踏まえて評価対象を決めるべきです。

石川会長

予算上での想定では年間会議は8回ですか。また、それは半日開催でしょうか。

事務局

会議予定は半日の会議を8回行うことを想定しています。

石川会長

何をどう評価するかによって異なりますが、川口市では内部評価の評価結果に対して適切に評価できているかを評価しています。内部評価においては、施策の中に事務事業

も出てきまして、その内部評価に対して、ヒアリングを行った上で「評価が妥当か。」や「指標・目標値設定が妥当か。」ということの評価し、1施策50分で行っています。2時間の会議で想定すると、8回の会議では難しいでしょうか。

中村委員

8回の会議で外部評価の結果をまとめるために、私の考える会議の進め方は、最初の会議でテーマの選定について議論してその次の会議でそれを決定します。そして、そのテーマについて2回の部会で議論して全体会で中間報告を行います。全体会の後に部会で再度1回議論し、最後の2回の全体会で取りまとめを行うというものです。

関口委員

可能な上限としたら何施策くらいになりますでしょうか。

荒木委員

前回会議で行った模擬実験はどのくらい時間がかかったのでしょうか。

事務局

約1時間15分です。

石川会長

190事業を評価した際は、朝から晩まで1つ30分で評価しました。川口市では1施策50分です。

中村委員

やはり少なくとも1施策30分から1時間程度はほしいです。

石川会長

川口市の例では、まずヒアリングで40分程、採点及びコメント記入に5分、その結果発表で5分です。

関口委員

その中に市民の方は多く入っているのでしょうか。

石川会長

入っています。

事務局

会議の流れについて、素案の内容を確認のため再度ご説明します。7月頃に行政経営方針が策定されますので次年度予算へ反映するためには、この部分につなげていきます。そのためには、まず前半は、重点プランの施策を評価し、6～7月に全体会会議を1回、2部会による部会を2回、最後に2回目の部会と併せて全体会を1回行います。次に、後半として、8月以降に重点プランの施策以外の施策を対象にして、4部会による部会を3回、取りまとめとして全体会を2回行います。以上が、素案で想定している流れです。

中村委員

部会の回数が多いのは賛成です。部会と全体会を同時に行うのであれば、4回目の部会辺りの開催時期を早めて、全体会として他の部会の意見も聞いてみたいと思います。

評価結果の反映が翌々年度になってしまうことについては、担当課の方に会議を傍聴していただいて、いい意見があれば予算等に活用してくださいというのはどうでしょうか。評価結果が形式的な報告書にまとまらない状態でも、柔軟に反映していったらいいと思います。

関口委員

資料1に記載の審議項目4の案2にある「NPO や市民団体による評価」を活用して、その評価を同じ線上に差し込んでいく、両輪で進めていくのはどうでしょうか。

中村委員

私は、ゲストスピーカーという形で、議論を深めるために意見を聞くというのを考えていました。ある施策の分野の担い手である方の話を聞くというのは、たとえ一方的な意見になってもいいと思います。

石川会長

多くの方の意見を出していくということについては、スケジュールと合わせてゲストスピーカーを呼ぶといったことも柔軟に行えばよいと思います。

基本的には、部会と全体会を絡めながら、まずは重点プランを評価していくという考えでいいでしょう。その他の施策については、できるだけ反映できる形として、正式な形ではなくても柔軟な形で、進めていくということがよいと思います。

(結論)

石川会長

評価対象はすべての施策（65施策）としますが、評価の順番や実施する年度等を組み合わせ考えていくこととします。また、重点プランの施策を優先して行っていく、それ以外の施策については、柔軟な形で進めていくこととします。

カ 審議項目5「評価の方法」

荒木委員

素案のとおりでいいと思いますが、今後の方向性は市民ニーズを反映しているか、また財政状況に合致しているかという視点で評価するのがよいと思います。

中村委員

先ほどの議論と重なりますが、対象は65施策としても年度ごとの評価については対象を絞り込みし、全体会と部会を設置するという事でいいと思います。全体的には素案のとおりです。部会での評価の方法については、事前に提出した意見では詳細に記載してしまいましたので、その他の部分で評価方法の詳細としてお話をさせていただきたいと思います。

加藤委員

自身が携わった内容は評価表を見て理解できても、そうではないものを評価する際は分かりにくいですから、その点をどうしていったらいいかなと思います。

石川会長

山田委員は「部会は可。委員20名とすれば、4部会でよいのではないか。」とのご意見です。

関口委員

基本的に素案でよろしいと思います。施策の優先度、つまり「これから一番何をしたいのか、できるのか、するのか。」という部分を進めていくものとして、重点プランでよしとします。

石川会長

川口市で行った外部評価シートの一例を参考に配付しました。川口市ではそれぞれの

項目を4点満点で評価し、これを集計して外部評価結果としています。また、これに加えてまた数字で表せない評価として定性的評価をしています。このような形で一つの施策がまとまり、報告書となるわけです。

なお、この評価では、施策や事業がよくやられているかを評価するのではなく、担当課が適正に評価しているのかということの評価する方法です。この方法では、基準があれば、各委員の評価に乖離なくある程度まとまってくると思います。

中村委員

川口市の例はとても分かりやすいです。外部評価の分かりづらいところややりづらいところは、内部評価をまず見ようというものと、内部評価を別にして意見を言おうというものがあるって、評価があいまいになってしまう点です。内部評価は正しくできているのかという評価があるって、またそれを基に、サービスの受け手から見ると内部が正しい課題等を認識しているのかということを議論するのもいいと思います。

石川会長

内部評価を外部評価することはじれったいと感じる部分もあります。事業はしっかりやっても評価が適正ではなければ、外部評価結果では適正ではないという結果になるということが起こります。

また評価する項目ということでは、川口市では評価表が市民に見せて分かりやすいものかという「調書のわかりやすさ」も評価しています。

中村委員

内部評価を評価するという方法であれば、評価コストも抑えられます。しかし、内部評価を参考にして発言していくとなると時間がかかります。

石川会長

内部評価を外部評価で適正かそうでないかを判断するのが基本だと思います。その関係で、実際に事業はこうだという意見が出るのはしょうがないことだと思います。

荒木委員

前回会議の模擬実験で各委員の評価結果に差があったのは、そういった評価に差があったからだと思います。ここを明確にして、視点を統一したいです。

石川会長

内部評価が適正にできているのか外部評価するというスタンスでよいと思います。

関口委員

内部評価が適正にできているのか外部評価するというスタンスや評価の考え方については、市民の方に理解していただく必要があると思います。

石川会長

川口市で最初実施した際は、事業に対する評価となってしまいました。外部評価は内部評価が適正にできているかという評価であることを、統一して分かりやすくする必要があります。

中村委員

ペーパー資料だけではイメージできない部分を補うことに加え、どういうことを評価するのかという基準について意識合わせがあれば、評価に入りやすいのかと思います。

(結論)

石川会長

素案の内容を中心とし、評価の方法は共通の基準及び認識を持つこととします。つまり、内部評価に対する外部評価であり、そしてその評価を受けて課題等への定性的評価をするという方法ということになります。

キ 審議項目6「全体の流れ」

加藤委員

資料の作成状況を見て、事務局で提案することがよいと思います。

荒木委員

次年度の予算編成に反映できるようにしてほしいです。もしできないものがあれば、中間報告といった形をとってほしいです。

石川会長

小倉委員は「次年度の予算編成までに、前年度のすべての評価が終了していること。」とのご意見です。

中村委員

後半の議論の結果については次年度への反映が難しいと思いますが、会議の途中でも、予算査定などに臨機応変に活用していただければと思います。また、アイデアの具体化には時間かかると思いますから、そこは必ず翌年度への反映ということにこだわられません。

関口委員

サイクルの中でPとDが終わったCの時に、事業が終わった段階でプールしていき、ポイントを決めて一括に評価するという考えです。

石川会長

素案の流れでいいと思いますが、意見の反映の時期については、機械的に決めることは難しいです。間に合わなければできるだけ早い時期に考え方として反映するという方式でいいのではないかと思います。会議録も比較的早く公表されますので、その会議録の内容をみて審議会の意見として捉え、その都度活用していく方法もあります。最終的な審議会の報告書はできていなくても、報告書はこの会議録をまとめた内容になるわけですから、会議録を活用してもよいと思います。

中村委員

素案では、外部評価の期間を広くとっていますので、よろしいかと思います。

(結論)

石川会長

素案の流れでよいですが、外部評価結果の反映については、次年度への反映が間に合わない場合には、できる限り早い時期に考え方を反映していくこととします。

ク 評価方法等についてその他の意見

中村委員

外部評価をすることに慣れていて反省するところとしては、議論をまとめることばかりにもっていくようにはしたくないと考えています。委員同士で議論する討論形式で評価したいです。また、初回会議等に他市の事例などを参考にして、外部評価のイメージを持つためにどういう評価をするのかといった勉強会を開催したらいいと思います。

石川会長

初回会議で、事例発表などの形もとって、具体的な評価の仕方について説明できたらいいと思います。

関口委員

市民が主体となるためには、市民が評価する内容を理解する必要がありますので、情報リテラシーの向上ができればいいと思います。

(2) 答申の構成について

事務局説明

答申の構成案については、大きく分けて3点の項目で構成する。1点目は、「1はじめに」として、全体的な内容と審議会での検討経過等についての部分、2点目は、「2答申」として、審議項目ごとの審議会の意見をまとめた部分、3点目は、「3その他」として、審議項目以外で、模擬実験の評価方法に対する意見やそれ以外の意見などについて、審議会で協議した結果をまとめた部分である。

中村委員

答申する内容は審議項目になりますので、「2答申」の順番を最初にし、「1はじめに」をその後にしてもいいのではないのでしょうか。

中村委員

答申の文章については、今日の会議録を参考に答申案のたたき台を作成していただいて、有志の委員でそれに手を加えて、次回会議で議論してまとめたらいいいと思います。

(結論)

石川会長

答申の構成は、「1答申」、「2審議経過」、「3その他」の順にします。「1答申」の前に答申に当たってという文章を入れることは、あってもよいとします。

2 その他

事務局から、次回以降の会議の日程（第4回会議：平成24年2月14日（火）10時）及び次回会議までの依頼事項の事務連絡を行った。

閉会